

2021年3月21日（日）受難節第5主日

銀座教会 家庭礼拝

礼拝招詞 「高く、あがめられて、永遠にいまし その名を聖と唱えられる方がこう言われる。わたしは、高く、聖なる所に住み打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり へりくだる霊の人に命を得させ 打ち砕かれた心の人に命を得させる。」
イザヤ書57章15節

主の祈り

天にまします我らの父よ、願わくはみ名を崇めさせたまえ。

み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を今日も与えたまえ。

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。

我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄とは限りなく汝のものなればなり。

アーメン

使徒信条

讚美歌 72番 われ信ず、三つなる ひとりの神を

聖書 エフェソの信徒への手紙4章7～10節

7 しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています。8 そこで、「高い所に昇るとき、捕らわれ人を連れて行き、人々に賜物を分け与えられた」と言われています。9 「昇った」というのですから、低い所、地上に降りておられたのではないのでしょうか。10 この降りて来られた方が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも更に高く昇られたのです。

牧会祈禱

天の父なる神さま。主イエスの十字架の御苦しみを覚えて歩む受難節の歩みを進めております。愛する御子を通して、あなたはわたしたちにまず忠実さと忍耐とお教えくださいました。わたしたちのうちに豊かにお働き下さり、このときを平安と希望を主に抱いて歩めますように。次主日は、銀座教会総会をお迎えいたします。困難な状況にあって、祈りと智慧を寄せ合って備えてまいりました。教会総会を主の御心のうちに守り導いてください。教会に連なるお一人ひとりのご健康と信仰生活をお支え下さい。新しい年度が、神様の恵みのうちに進められますように。病の中にいる方を癒し、お支え下さい。医療従事者をお守りください。神様の御心を求めるお一人ひとりの道に主が光をもって照らしてくださいますように。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン

信仰生活において大切なことは何でしょうか。何が一番、何が二番とは言うわけにはいかないでしょうが、私たちに「恵みが与えられている」、その確かさを失わないということが、今、とても大切なことに思えてなりません。コロナ感染第三波の緊急事態宣言から2か月を経過しました。誰にとっても、毎日の生活が試練の中です。試練の日々はまだまだ続くと考えなければなりません。その試練の中で、誰もがさらに、それぞれの事情をかかえて日々を過ごしています。若い方たちには将来の不安があり、高齢の者たちにも日々の苦勞があります。病に苦しむ人や家族もあるでしょう。しかしこの試練や苦勞の生活の中で、キリスト者は「恵み」の中に生かされています。そう信じています。今朝は、「恵みを与えられている」とは、どういうことなのか、それがどんなに素晴らしく、力強いことか、御言葉を聞いて、神様の御名をほめたたえたいと思います。

お読みいただいたエフェソの信徒への手紙4章7節にはこう記されています。「しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています」。「恵み」は、「わたしたち一人一人に与えられている」と言われます。「しかし」と文頭に記されていることは、その前に記されていることと違うことを言っていることを意味します。直前に記されていたのは、エフェソの信徒への手紙の後半、つまりさまざまな勧告を記した最初の部分で「教会は一つの体」である、その「一致を保つように努めなさい」ということでした。「主は一人、信仰は一つ、バプテスマは一つ、すべてのものの父である神は唯一であって」、あなたがたは一つの体、一つの霊、一つの希望にあずかっていると語られました。しかし、「恵み」は、わたしたち一人一人にそれぞれの形で注がれているということです。教会という一つの体があるだけではない、その中に一人一人が恵みによって生きている現実があります。教会の一致を保つのは、その一人一人を無視した全体主義ではありません。教会は一つと言われる中で、私たち個人の一人一人がいる、いなくてはならない、恵みは私たち一人一人に与えられています。

恵みが「与えられている」というのは、恵みは私たちが自分で造り出すものでも、つかみ取るものでもない、努力して獲得するものでないことを言っています。一人一人に恵みが与えられているのは、キリストによって、その賜物によってと言われます。私たちそれぞれが、あれが欲しい、これが欲しい、これがなければ恵みじゃないというのでなく、「キリストの憐みに」によって、私たちそれぞれに最も必要な恵みが与えられています。健康でなければ恵みはないでしょうか。世でいう幸せがなかったら、恵みはないでしょうか。そうではありません。何があろうとなかろうと、私たち一人一人にキリストご自身によって、その憐れみによって、キリストの賜物から恵みが与えられています。

エフェソの信徒への手紙は、この恵み、キリストの賜物を教会の役職や奉仕の業と結びつけました。今朝の箇所直後には、「ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教師、ある人を牧者、教師とされた」、そしてそれら教会の指導者たちは「聖なる者たち」、つまりすべての信徒、キリスト者たちが「奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げていく」、そのために仕えると言われています。恵みは教会での役割や職務で

もあるのです。それも、教会の指導者の奉仕の働きだけでなく、すべての聖徒たちが奉仕の業に適した者へと備えられると言われます。

教会の中で役割を持っていることが分かり易い人もいるでしょう。しかし特別な役割を持っているとは思えない人の場合もあります。しかしどの一人一人にも恵みは与えられます。それによって、キリストの体を造り上げていくと言うのです。キリストの体を造り上げるうえで特別な役割を持っていない人はいません。恵みを与えられていない人は教会の中に誰一人としていないわけです。どの人もキリストの体を造り上げるメンバーとして、欠けてはならないキリストの体の一部にされています。キリストの恵みを与えられたということは、ですから、キリストの体の一部にされたことで、主から賜わった恵みとは、その御身体の一部とされていることと言ってもよいのではないのでしょうか。私たちの中には弱く見える人もいます。見えるだけでなく、文字通り弱くなっている人もいます。自分にまったく自信を持ってない人もいます。しかしキリスト者であるということは、イエス・キリストと結ばれ、主イエス・キリストの体の一部にされ、主にある者とされています。キリストの御身体の一部とされていることは、キリスト御自身をいただいていることであり、恵みとはイエス・キリスト御自身をいただいていることです。主イエス・キリストは、私たち一人一人に御自身を恵みとして与えてくださり、それによって私たちはキリストの体の一部にされました。

このように御言葉から聞きますと、この短い箇所の中で、実に重大なキリストの恵み、私たち一人一人が受け取っているキリストの恵みについて語られていることが明らかです。恵みはキリストの賜物であり、私たち皆がキリストの体の一部とされ、教会の中で無くてならない人とされ、キリスト御自身を恵みとして受け取っています。

これに加えて、聖書は不思議な語り方をします。それが、旧約聖書から引用された言葉です。詩編68編19節からの引用ですが、それを用いて、主イエスの「昇天」、そして「高举」のことが語られています。主イエスは十字架の上に死なれ、葬られたあと、復活し、天に昇られました。そのことをエフェソの信徒への手紙は「もろもろの天よりもさらに高く昇られた」と言い、それはイエス・キリストが「すべてのものを満たすため」であったと言うのです。主イエスは今、復活のキリストとして高く上げられています。神は絶大な働きをなさる力をキリストに働かせ、「キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座につかせ、すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、あらゆる名の上に置かれ」（エフェ1・20-21）しました。

キリストの高举、キリストの昇天、そこに示された力が「恵み」と関係があると言うのです。キリストが高举されたのは、目的があつてのことでした。「すべてのものを満たすため」と言われています。これが、私たちに与えられている恵みと深く関係しています。高く挙げられたキリストがその絶大な力をもってすべてのものを満たします。すべてのものの中に私たちも含まれています。主は、私たちのすべてを満たしてください。私たちが満たしてくださるといふのは、私たちのどんなときにも、主イエスがその御力をもって共にいてくださることを意味するでしょう。どんな事情の中でもキリストの恵み、キリストの愛とその勝利の力が私たちに満たします。キリストがご自身を恵みとして与え、そ

の御力がどんな時にも私たちをいっぱい満たしてくださる。それが、恵みを与えられているということです。私たちがどんなときにもキリストに一杯に満たされていること、キリストが私たちの中に充滿してくださること、私たちの中に一杯に満ちてくださるキリスト御自身がいてくださる。それが恵みです。

そうであれば、いつ、どんなときにも、私たちは神の恵み、キリストの恵みを信じて、確信を持つことができるのではないのでしょうか。自分の調子のよい時だけに、恵みを確信するではありません。どんなに調子の悪い時にも、キリストの恵みを確信することができます。なぜなら、その時にもキリストは私たちをすべてにおいて満たしてくださっているからです。そのために主イエスは復活され、高く挙げられました。

神の恵み、神の絶大な力によるキリストの恵みに満たされていれば、私たちは満ち足りることができるでしょう。神の恵みを確信して生きるということは、信仰の人生を満足して生きるということです。外から見ると、不幸せに見えるかもしれません。色々な不足に喘いでいるように見えるかもしれません。しかしそう見えるとしても、真の現実は違います。死にかかっているようで、見よ、生きています。私たちの現実は、主イエス・キリストが私たちに御自身を恵みとしてお与えくださり、私たち自身を主の体の一部となさり、キリストの体である教会のなくてはならない一部とし、神の民の不可欠な一員にしてくださいます。どんなときにもキリストが私たちの中に満ち満ちてくださいます。その恵みに生きる者として、主イエス・キリストに私たちは深く満足しています。その満足の中に恵みの確信があります。キリストに満足することによって、キリスト者とされた自分の人生にも満足しています。それがどんなときにも思い煩うのではなく、喜んで生きていく力です。

祈 禱

主よ、どんなときにも私の中に満ち満ちて下さるあなたを感謝します。イエス・キリスト御自身が私に与えられた恵みであることに、私は満足し、満ち足りた喜びにいます。同じ喜びに他の方々を招くことができますように。願いと感謝を、主イエス・キリストの御名によって祈り上げます。アーメン。

祈 禱 (各自、自由にお祈りください)

祈禱課題 自粛生活の忍耐の中、お一人ひとりが健やかに平安に守られますように
主の十字架のご受難を覚えて祈りましょう
銀座教会総会と新しい年度の歩みを覚えて祈りましょう
卒業・進級・進学・就職など新しい環境で歩む方々を覚えて
銀座教会が銀座の地で主の栄光を現しますように

讃美歌 492番 かみのめぐみは いとたかし

献 金

頌 栄 544

祝 禱

安心して行きなさい。主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。 アーメン